天津 注目のデスティネーション

天津市の概要

中華人民共和国の４つの直轄市の１つ。中国北方最大の対外開放港

面積：１万1760平方㌔㍍。海岸線の長さは153㌔㍍　　人口：1400万人

気候：四季がはっきりした大陸性気候。春は風の日が多く、雨は少ない。夏は高温多雨。秋は快適。冬は寒く、空気が乾燥している

位置：華北平原の北東部、太平洋の西海岸部環渤海湾の中心に位置し、北に燕山山脈、東は渤海に臨む。首都北京市との距離はわずか120㌔㍍

歴史：「天津」の名が歴史に登場するのは1404年。明の永楽帝の頃に「天子経過的渡口」とあり、「天子がお渡りになった渡し場」の意味で「天津衛」と名付けられた。その後、９カ国の租界が置かれ、今も多くの洋風建築物が残る。良港に恵まれ、各地の料理も伝来。洋風建築とグルメは天津独特の都市風情

近代の歴史と最新の中国が融合

中国の旅行業界では、「5千年の歴史を見るには西安、1千年の歴史を見るには北京、近代歴史を見るには天津」と言われている。1858年の天津条約以降、ここでさまざまな歴史ドラマが生まれた。近代の歴史の香りと最新の中国の風景が融合した都市、天津市の魅力を紹介する。

渤海経済圏の中心都市

天津港は世界最大の人工深水港で、貨物輸送では180カ国・500港とつながっている。米国やイタリアをはじめとした大型客船も数多く入港。同時に6隻の大型クルーズ船の停泊が可能である。

天津市は、中国の4大直轄市の一つで、人口1400万人を擁する中国北方の渤海経済圏の中心都市だ。

国際貿易で有名な一大港湾都市でもある。北京との距離は120㌔㍍で「京津城際鉄路（新幹線）」が約30分で結ぶ。

天津濱海国際空港には、19カ国の航空会社が乗り入れ、100を超える航空路線がある。年間旅客数は1千万人を超える。

タイトル下の写真＝（左）広さ9千平方㍍の海河外灘公園、（中央）劇場や高級レストランなどを備えた商業区「津湾広場」、（右）橋の中央がウイング式で、船舶の通過時は自家発電により跳ね上がる「解放橋」

日本への路線が拡大

天津航空、春秋航空が就航

天津と日本を結ぶ航空路線は、新規路線、チャーター便の就航が活発化している。

天津市に本社を置く天津航空は、5月28日に天津と富士山静岡空港を結ぶチャーター便の運航を開始した。10月25日までの間、週5便を運航し、主に訪日中国人旅行客を運ぶ。天津航空の日本への就航は、富士山静岡空港が初めてとなる。

春秋航空は、天津と関西国際空港を結ぶ新規路線を7月18日に開設し、週4便を運航する。天津市は渤海経済開発区の直轄市で、北京市にも近く、多くの日本企業が進出していることから、ビジネス・観光ともに大きな需要が期待できると判断した。

芸術

天津には、さまざまな芸術や手工芸品がある。

「〝楊柳青〟年画」は、中国を代表する有名な年画の一つで、版画で下絵を映してから色を塗る半印半画という独特の手法を用いている。丹念に色を重ね塗りするため、仕上がりは精緻かつ繊細だ。

「〝泥人張〟彩塑像」も有名。清朝後半に始まった民間の彩り塑像。

このほかにも天津凧、天津切り絵、漢沽版画などが人気だ。

〝楊柳青〟年画

シティツーリズム

天津市には租界地があったため、街にはエキゾチックな風情が残っている。英、仏、伊、独などの様式の建築物が230棟あり、「万国博覧会」とも呼ばれる。郊外に少し足を延ばせば、世界遺産、万里の長城の見学も可能だ。「黄崖関長城」は全長42㌔㍍。1999年から国際マラソン大会も開かれている。

▲利順徳大飯店＝1863年建築。中国大陸の歴史上、海外客を受け入れる最初のホテルとして建てられた。国の重点文物保護に登録。孫中山、溥儀、梅蘭芳などの歴史上の人物が多く利用したホテルとしても有名で、修築された今でも当時の趣きを残した部屋がある。地下１階の博物館ではホテルの歴史を紹介し、中国に現存する最古のエレベーターに乗ることができる。天津市内には現在、５つ星ホテルが15軒、４つ星ホテルが37軒。洋風建築物を改築したホテルなど特色ある宿泊体験ができる

▼〝天津の眼〟観覧車＝直径は110㍍。天津40㌔㍍の景色を見渡すことができる天津のシンボル。世界で唯一、橋の上に作られた観覧車として、天津の海河にかかるロマンチックな景色を一望できる

クルーズ

天津市内を流れる海河を遊覧する「海河遊覧船観光ツアー」は09年に開始。ディクルーズ、ナイトクルーズなどを20余隻で運航している。また、コスタロマンチカ号、レジェンドオブシーズ号、ダイヤモンドプリンセス号、ビクトリア号などの国際豪華客船が天津東疆国際旅客本港を往来。毎年100隻以上の国際豪華客船が入港する。

◀▲東疆港定期客船母港＝天津港東疆港区の南端に位置。企画岸壁の長さは1600㍍で、６隻の国際大型定期客船の停泊が可能

▲海河クルーズ＝昼夜問わず、天津市の中心である海河の両岸を眺めるクルーズを楽しむことができる

MICE

天津市は、ＭＩＣＥのデスティネーションとしても注目を集めている。「中国旅游（旅行）産業博覧会」は09年から毎年1回開催されている。ＭＩＣＥとは、ミーティング（企業会議）、インセンティブ（企業の報奨・研修旅行）、コンベンション（国際会議）、エキシビション・イベント（展示会イベント）の頭文字をとって総称したもの。

▲梅江会議展覧センター＝例年、中国旅游（旅行）産業博覧会の会場となっている梅江会議展覧センターは、2010年夏季にはダボス経済フォーラムも開かれた施設。周辺に高級ホテル、商業施設が立ち並ぶ

◀中国旅游産業博覧会＝80余りの国と地域、中国全土から31の省市が集まる大型旅行博覧会。2009年に始まり、旅行業界の高い評価を得ている。ブース出展や商談会に加え、旅行発展シンポジウムの開催、クルーズ船などの展示もある。今年は９月19～22日に開催される

テーマパーク

濱海空母テーマパーク、極地海洋世界などの観光施設も天津の見所の一つ。このほか市内中心部には、中国の歴史を1404年まで遡って感じることができる「古文化街（古文化観光貿易区）」、回転展望塔を備えた高さ415・2㍍の「天津ラジオ放送テレビタワー」、直径110㍍で48個のゴンドラを有し、384人を同時に収容できる「永楽橋観覧車」などもあり、観光スポットは豊富だ。

▲濱海空母テーマパーク＝軍事国防、現代科学技術の紹介を兼ねたレジャー施設。中心施設である旧ソ連の航空母艦「基補（キエフ）」は、全長273.1㍍で、幅52.8㍍、高さ61㍍。甲板、飛行機格納庫などを見学することができる。艦内には観光客向けのレストラン、宿泊施設もある

▲極地海洋世界＝水族館と公園を複合させた大型テーマパーク。シロクジラやホッキョクグマなどの珍しい海洋動物を間近に見ることができる。180度全景の海底トンネルでは水中にいるような体験ができる

▲古文化街＝５Ａ級旅游景区。通りの長さは680㍍で天津独特の文化、歴史、民俗が感じられる。古い天津の街の雰囲気を残した通りには、工芸品などの土産店やレストラン、茶館などが立ち並び、年間1300万人の観光客が訪れる

▼イタリア風情区＝19万平方㌔㍍にアジア最大かつ最も完璧な状態で保存されているイタリアの建築群。ショッピングや食事など、観光スポットとして憩いの場となっている

グルメ

「天津三絶」と称される軽食がある。100年以上の歴史を持つ「狗不理包子」、芯の生地にゴマ、クルミ、カボチャの種、梅の実とキンモクセイの砂糖煮などを練り込んで揚げた「桂発祥麻花」、そして、きびで作った生地にこしあんを入れて揚げたイスラム饅頭の「耳朶眼炸糕」だ。

カリントウにも似た菓子、桂発祥麻花

小さい肉まんのような狗不理包子